

現代国際学部：英語教育での試み

—よりの確な英語力測定を目指して—

For the Improvement of English Language Education

At the School of Contemporary International Studies

— Focused on a More Appropriate Appraisal of Student English Competence —

木村友保* 玉井俊紀 濱嶋 聡
原田邦彦 浅野輝子 室 淳子

Kimura Tomoyasu, Tamai Toshinori, Hamashima Satoshi,
Harada Kunihiko, Asano Teruko, Muro Junko

I. はじめに

留学するためには、TOEFLで何点取るかが鍵を握る。また、就職活動の際、最も聞かれるのがTOEICで何点取ったかである。従来は、英語検定で何級を持っているかが判断基準であった。しかし、いずれの試験も、標準試験で、客観試験である。そういう試験では、普通「4つの選択肢から1つを選ぶ」という作業が求められる。もちろん、その選択でも理解が前提だが、「当てずっぽうに」答える可能性も高い。

本学部は「仕事で使える英語力」を看板に掲げている。本学を卒業した学生は、上司が海外から受け取る英語文書の翻訳を頼まれるかもしれない。また、逆に、海外の取引先に日本語の文書を英語に翻訳することを頼まれるかもしれない。さらに、上司が海外からの文書の内容を簡潔に知りたいという状況があるかもしれない。そういう状況は、標準テストで行われるような「4つの選択肢から1つ選ぶ」状況とは全く異なり、英語をできるだけ正確に日本語に訳すこと、日本語を的確に英語に訳すこと、そして、まとまった英語の文章を的確に要約することが求められる。

「コミュニケーションを目指す英語教育」ではとかく、ネイティブスピーカーと流暢に英語で話すことが強調される傾向にあるが、実はそれは必ずし

*この報告書は、木村が代表として執筆した。

も、「仕事で英語が使える」ことを保証しない。「ネイティブとの会話には抵抗を感じなくなった」、「英語は流暢に話せるようになった」という側面はある程度達成できたと認識した私たちは、今自分たちの英語教育を1人ひとりの学生のよりの確かな英語力を把握するためには何をすべきかを考え始めた。そのための第一歩として、標準テストのみに依存するのではなく、自前のテストを作成し、その採点、統計処理を通して、教員間の共通認識をより深めながら、学生の「英語力」の実態を探ろうとしている。

II. CE の設定

Comprehensive English（総合英語＝CE）という科目がある。「ネイティブによる授業」が売り物の本学の英語教育の中身をより充実するために設定した。「英語100%の授業」は魅力的に聞こえるが、学生が「100%理解している」ことと同義ではない。いや、むしろ、ネイティブの教師の指示を聞き、完全にはわからない状態で、わからないところは「当てずっぽうの理解」で毎回の授業を過ごす。「ネイティブの授業には慣れる」が、正確に理解できているところとそうでないところの区別がつかない。

ネイティブの授業でぶつかるそのような問題を少しでも解決できるように、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのコツを教えるのが目的である。口で言うのは簡単だが、実際の学生を目の前にすると、担当したクラスで、弱いところはまちまちである。よく観察すると同じクラスでも各学生が異なる問題を抱えている。そこで、CE担当者は、自分が担当する学生に応じて、何から始めても構わない。辞書に載っている発音記号が読めなければその読み方指導から始めても構わない。ネイティブの授業ではリスニングが鍵を握ると考えれば、まずはその基礎訓練からはじめ、ネイティブの授業でどのように積極的に質問をするか、そのノウ・ハウを教えるもよい。リーディングこそが実力の要と考える教師がいて、速読・精読の訓練をコンスタントに行ってもよい。

CE ではどのクラスでも、要するにネイティブだけの授業では大雑把にし

か理解できていないところをより正確に理解できるようにお手伝いすることから、英語の基礎力が十分ついており、高度な英語の運用能力をつけたいという学生にはディベートのクラスまで用意できる。ただし、他の Power-up Tutorial や、Oral Communication Strategies、Writing Plus、Reading for Understanding、TOEIC/TOEFL Preparatory コースとは異なって、各セミスターの終わりに1年生、2年生全員が受験する「共通テスト」を実施している。

Ⅲ. CE の共通テスト

各クラスで中間考査や期末考査をやっている。大抵は、学習したことを確認するテストで、各担当者が掲げた目標を学生がどこまで達成したかを見る achievement test である。TOEFL や TOEIC の試験は、受験した時の受験生の英語力のある程度測定するものである。試験範囲はない。Proficiency test である。CE の共通テストも proficiency test である。範囲はないが、今までのところ、テスト形式には統一性がある。以下の5項目である。

- (1) 英文中の下線部和訳 (20点)
- (2) 日本文中の下線部英訳 (20点)
- (3) 英文を読んで要約 (1年生は、英語で要約、2年生は日本語で要約) (20点)
- (4) 英文法 (1年は間違い箇所の指摘、2年は間違い箇所の指摘および訂正) (20点)
- (5) 語彙の知識 (選択) (20点)

1年対象の試験で「間違い箇所の指摘」という問題のみ、記号で答えるが、他はすべて選んだものも手書きさせる。問題 (1) (2) (3) に関しては、たっぷり書いてもらう。学生がたっぷり書くということは採点者もたっぷり時間をかけて採点をする。模範解答例を作るが、採点の際、採点者間でどこまで

を許容範囲するかを決めて、部分点をどこまでにするかを決める。

ある程度まとまった英文を示し、その文中の下線部を日本語にする問題が1番である。英文を構成する単語の意味を羅列するだけでは文の意味を提示できないような下線部訳を目指している。ある程度まとまった日本語を示し、その文中の下線部を英語にする問題が2番である。日本語と英語のギャップに注目をし、英語らしい、理解できる英文に訳出できることが目標。ある程度まとまった英文を示し、その文章全体を簡潔な英語で要約する問題が1年生対象の3番の問題である。その文章全体を簡潔な日本語で要約する問題が2年生対象の3番の問題である。最初の年は、1年生対象の要約問題は英語を日本語で要約させ、2年生対象の問題では英語を読ませて、英語で要約させたが、ネイティブの教員に採点をお願いしたところ、原文を利用すれば基本的な部分はそのまま引用できることから、要約問題では高得点者が続出した。「英語から日本語要約」は、英語をまず理解し、適切な日本語にし、かつ要約になるとそれを整理しなければいけない。よってそれだけ、高度な技術となる。そこで、今では1年生に「英語を読んで、英語で要約」、2年生に「英語を読んで、日本語で要約」という問題を課すことで定着した。毎年、1年生に「英語を読んで、日本語で要約」してしまう受験生が数名ずつ出ている。

英文法の問題は TOEFL の文法問題の形式を採用している。つまり、英文を示し、その文中に4箇所下線を施す。受験生は、4箇所の中で、文法的誤りがある箇所を指摘する。A、B、C、Dのうち、もしCの下線部に間違いがあると思われれば、解答欄にはCと記せばよい。これが1年生対象の問題である。2年生対象の問題では、間違いがあると思われる箇所の、間違いを記し、かつ正しいものを記すことが求められる。一番での悪い問題である。

最後は、受験生がどれだけ現代英語を知っているかということで、今に至るまで5回分のテストを見ると、時事英語が比較的多く使われていたように思われる。英文中に（ ）があり、そこに入る1語を下語群から適当と思われる語を選び、解答欄に書き写す。正しいものを選んででも間違ったスペルを書いたり、不完全なスペルの場合は減点する。

Ⅳ. 共通テストの作問と採点

専任教員が共通テストの問題を作っても、作問料は大学からは出ない。また、採点料も出ない。しかし、非常勤の教員には両方とも出る。現時点では、大問題1題につき、3,000円支払っている。採点料は、90分で1万円である。両方とも、税込の料金である。共通テストを始めた初年度は作問も採点も専任教員のみで行ったが、2年目から非常勤の教員にも依頼を始めた。いろいろな点で利点がある。

専任教員と非常勤の教員との情報交換の場となる。日頃の授業ではお互いが忙しくて、本学の教育方針のこと、学生のこと、教員の福利厚生のことなどについて意見を聞く機会がない。採点の合間などの休憩時は、格好の情報交換の場である。学生についての情報交換が一番多い。話すのが得意な学生、静かだが深く考える学生、もっとできると思っていた学生が意外に基礎的な知識がないことがわかったなど貴重な情報交換ができる。

ネイティブ教員の協力も少しずつ得られるようになった。要約問題では、課題文の提供、英語要約文の採点も協力してもらえた。

共通テストの実施は、1年生の前期に関しては「研究基礎トレーニング」の授業（木曜日、3限目と4限目）を利用させてもらって一斉に行う。しかし、後期は、最後から第2週目に実施することを原則としている。最後の授業で、答案、採点者のコメント、クラス平均、学年平均を出して、各担当者から答案、解答例を返却してもらう。2年生はいつも各期の最後から2週目に実施。1年生も2年生も採点はほぼ同時期に行われるため、この採点業務は多忙を極める。非常勤の教員、専任の教員の都合の調整と採点のための時間帯と部屋の確保を予めやる必要がある。

Ⅴ. TOEFL や TOEIC との相関関係

TOEFL は留学制度推進のために不可欠である。そのために、定期的に各学年の学生に必ず受験させている。この結果が、海外短期研修、中期留学、長期留学の選考では大いに参考になる。そのために、TOEFL 受験担当者が

ら結果が送られるたびに、英語教育チームの中の専門員に常時データを送付している。TOEIC は就職活動を開始する全学生が聞かれる英語力測定の尺度として定着している。そのため、この受験も定期的に各学年の学生には受験させている。その結果も専門員に送付している。そこで、今回は共通テストの最近の結果データ（平成22年7月初旬実施）を入力し、同じ担当者に送付した。その結果は以下の通り。

2010年7月実施の現代国際学部実力試験

実力試験（7月）vs TOEFL 得点（6月）相関係数（サンプル数331人）:0.55

実力試験（7月）vs TOEIC 得点（7月）相関係数（サンプル数183人）:0.59

0.0～0.2 ほとんど相関関係がない

0.2～0.4 やや相関関係がある

0.4～0.7 かなり相関関係がある

0.7～1.0 強い相関関係がある

本学で実施している共通テストで、「実力あり」と見られた学生は、やはり TOEFL や TOEIC でも実力ありと判定できることがわかった。反対に、「実力がない」という学生は他の客観テストでも悪いことがわかる。ただし、テストの本来の目的は、学生のランク付けが目的でないし、現時点での実力の判定のみではないはずである。「力のある学生」はどこをのばせば、さらによくなるか。「良くない学生」はどうすれば、今後伸ばすことができるかを教員が知ることになる。さらに、筆記テストで、項目別に得点が記してあるので、より細かい指導ができるのが、自前のテストの良さである。

VI. 今後の課題

今回の実践報告の目的は、現代国際学部の英語教育チームが、現状を把握し、今後の教育のあり方を考え始めていることを全学的に知ってもらうこと

にある。調査結果は最新のもののみを使って、まだ表面的な報告をしたに過ぎない。しかし、今回の共通テスト終了後、TOEFL や TOEIC ではあまり起こらない反応があったことを報告しておきたい。

あるクラスの学生が「今回の共通テストの結果は、高校時代から私が感じていた通りの結果でした。実力はないが、日頃は先生のいうことを良く聞いて、平常点で点を確保して、英語の成績はある程度のもを確保してきました。しかし、外大に入ったのですから、このままではよくないと思います。先生のご都合のよい時まで、もう一度、すべての問題をやり直してきますから、問題を1つずつ解説して下さい。」と言ってきた学生がいた。もちろん、夏休み中のある午後を使って、じっくりと試験の解説をした。共通テストの意義を少しは理解してくれたようであった。

これはほんの一例に過ぎないが、今後共通テストに関する限り、このようなアフターケアの充実もすべての英語教員の協力を得ながら、また上級生で、将来教育関係に進路を決めている学生にはぜひこのような協力体制の中に加わってもらうことによって、図っていきたい。

今回の報告では、一回のみの共通テストの結果と、日程的にその前後の TOEFL や TOEIC の結果との相関を見てみたが、今後、今まで実施したすべての共通テストとその他の試験との相関を調べ、より正確な情報を把握したい。次回の実践報告は、英語で行い、より多くのネイティブの教員の協力も得られるような形で、CE で始めた共通テストを現代国際学部の英語教育の現実をより正確に測定し、今後本学部が行うべき英語教育の姿を明示したい。Appendix に最新の共通テストをサンプルとして紹介しておく。

Appendix

Comprehensive English I

NUFS-2010

Common Test (1)

総合点

/100

I. 次の英文を読み、下の設問に答えなさい。(20点)

A. 下線部 (a) - (c) について、それぞれの質問に答えなさい。

When I came out of school I was surprised to see Mum's car. She was waiting to take me home. Amazing! Normally, she never did (a) that. I always took the school bus. On the way home she took me to the ice cream shop. (b) That was something else she never usually did. And (c) when we got home, she insisted on cooking my supper herself.

(a) that は何を指すか、日本語で答えよ。

(b) 下線部の意味を、that が何を指すかわかるように、日本語で書け。

(c) 下線部の意味を日本語で書け。

B. 下線部のみ日本語に訳しなさい。

The Civil War began in 1861 as a struggle over the right of states to leave the Union. President Abraham Lincoln firmly believed that a state did not have that right. And he declared war on the southern states that tried to leave.

C. 下線部のみ日本語に訳しなさい。

World leaders in the Group of Eight (G8) have concluded their summit in Canada, saying the global economy is at an important crossroads, with the world still at the beginning of a fragile recovery from economic crisis. G8 leaders now taking part in the G20 summit also criticize Iran and North Korea over their nuclear programs, and address the situation in Afghanistan.

II. 次の日本語の文章を読んで、下線部を英訳しなさい。(20点)

俳句 (Haiku) は日本の伝統的詩形式の一つですが、(1) 日本国外では19世紀末から徐々に紹介されていました。(2) 20世紀初頭までに俳句は欧米の詩人の注目を集め始めていました。アメリカ出身のある詩人は、彼が偶然耳にした俳句にヒントを得て、詩を書き上げたと言います。

(3) その詩人はある日、地下鉄の駅で女性と子供の顔を見て、強い印象を受けました。家に帰り、その印象を表現しようとして、彼は詩を書きますが、それに満足できず、破り捨ててしまいます。約半年後、(4) 彼はロンドンで、友人の詩人と話す機会を得ました。(5) その友人は彼にある日本人の海軍将校 (navy officer) と会った時の話をしました。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

Comprehensive English I

Common Test (1)

NUFS-2010

- IV. 次の各英文の () 内に、下より適語を選び、書きなさい。ただし、同じ単語を2度使わないこと。(20点)
1. Honesty was the crucial () in his success.
 2. The operation caused damage to the ().
 3. Soil consists of various chemical ().
 4. He became ill with ().
 5. Who will be in () of directing the accounting department?
 6. Why don't you get some rest for a ()?
 7. I wonder what this parcel's shipping () is.
 8. Business attitudes toward Thailand now seem to be undergoing a () change.
 9. President Obama and Japan's Prime Minister Kan have agreed to address many () facing both nations
 10. Miyazaki Prefecture, hit by an () of foot-and-mouth disease, says that its 5 remaining stud bulls tested negative.

sea, nerve, charge, epidemic, factor, issues,
substances, fatigue, change, rate

氏名 _____ 学籍番号 _____

/80

Common Test (1)

総合点

/100

I. 次の英文を読み、下の間に答えなさい。(20点)

A) 次の英文を読み、下線部 (a) - (b) について、それぞれの質問に答えなさい。

They found (a) it in Pine Crest. Pine Crest is a small town about 90 miles from Denver, in the Rocky Mountains. In the past it was famous for silver and gold. But now it's a place where people go on vacation; they ski there in the winter and walk in the mountains in the summer. Movie stars have homes there. It's beautiful and it's quiet when the snow falls. Pine Crest isn't usually the kind of place you find a dead body. (b) Denver's the place for that, not Pine Crest.

(a) itは何を指すか、日本語で答えよ。

(b) 下線部 (b) の意味を、thatが何を指すかわかるように、日本語訳をしなさい。

B) 下線部のみ、日本語に訳しなさい。

I was thoroughly impressed by what I saw of your operations during the tour. Kruger's emphasis on quality was apparent in both the procedures at the plant and the attitude of the staff. I was particularly impressed with the technology you have implemented to monitor quality control of your products on a continuous basis.

C) 下線部のみ、日本語に訳しなさい。

Salt may seem rather a strange substance to use as money, but in countries where the food of the people is mainly vegetable, it is often an absolute necessity. Cakes of salt, stamped to show their value, were used as money in Tibet until recent times, and cakes of salt will still buy goods in Borneo and parts of Africa.

Ⅱ. 次の日本語の文章を読んで、下線部を英訳しなさい。(20点)

(1) 英語教育は、西洋化が基本的に始まった明治時代 (the Meiji era) の初めに、日本に正式に導入されたといっても差し支えない。また、非常に興味深いことに、英語学習ブームには、明治時代以降、40周期で浮き沈みがある。

(2) 明治時代初期には、英語は日本の母国語にすべきであるという考えが普及していた。しかし、1889年の大日本帝国憲法の発令後は、国粹主義者がその考えを退けた。

(3) 日露戦争後 (the Russo-Japanese War)、また別の英語教育ブームが到来した。この二度目のブームは明治40年くらいに始まった。しかし、英語教育を廃止するという考えが1927年に持ち上がり、第二次世界大戦の間に英語は敵国の言語という位置付けに次第に下がっていった。

戦後、三度目の英語教育推進のブームがまったく予期されずに到来した。(4) 英語は1947年には義務教育に組み込まれ、これは象徴的な出来事であった。その後、日本経済が大きく成長し日本が力を取り戻すにつれ、英語に対する別の反発が起こった。

明治維新からおよそ120年後、日本経済は破綻し、経済を再び軌道に乗せようとする勢いが、英語教育を重視する日本政府の決断を強めた。(5) 2001年には指導にも英語を使うという考え方が基本方針となった。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

- IV. 次の各英文の () 内に、下より適語を選び、書きなさい。ただし、同じ単語を2度使わないこと。(20)
1. Do you think you could possibly get this () out?
 2. Dr. Young cannot come due to an unexpected ().
 3. We sincerely apologize for any () this may cause you.
 4. In () to your advertisement in yesterday's paper, I wish to apply for the position announced.
 5. Thank you in () for your understanding and cooperation.
 6. Prices and hours are subject to change without ().
 7. We take () in the comfort and enjoyment of our guests, whichever season you visit.
 8. Japan's previous government resigned after failing to deliver an election () to move the US base off Okinawa.
 9. BP's latest bid to cap a ruptured () in the Gulf of Mexico is now capturing more than half the estimated leak.
 10. In a remote and isolated area like this any businessperson stands out like a sore ().

| |
|--|
| notice, thumb, response, stain, well, pride, inconvenience, advance, pledge, incident |
|--|

氏名 _____ 学籍番号 _____

/80

